

(お子さんが大人になったとき、社会で活躍できるヒントがいっぱい)

## 箱根駅伝、圧勝の青山学院大

### その強さの秘訣とは？

### ～原監督の目指す「強いチーム作り」～

## サラリーマンから駅伝監督に

3年契約で就任した原晋監督が率いた青山学院大学陸上競技部は最初の予選会で16位、翌年は13位、その翌年は16位という結果に終わり、3年続けて本選出場を果たすことはできませんでした。

何とか契約延長になった原監督が考え直したのはスカウティングの方向性でした。

最初は人間性を重視してスカウティングしていましたが、「結果を出したい」というラストイヤーには、人間性は後回しにし記録優先でスカウティングをしていたのです。

その結果態度の悪い選手が寮のルールも守らず、周りに悪影響を与えるようになり、そのうち実力のある新生たちがどんどん辞めていきました。

その結果、前年の13位から順位を落とすこととなったのです。

## 選手である以前に社会人として育てる

『組織というものは、ベースにはちゃんと組織としてのルールがあって、その上に自由な発想というのが乗ってくるものだと考えています。最初からすべての自由を与えてしまったら、それは単なる緩い組織となり、組織として重要な土台がしっかりできない。』

ですからまずはベースづくりには時間をかけました。特に陸上はタイムで管理される世界ですから、集合時間などは1秒単位までうるさいですよ。

そういう組織で育たないと、大学を出た後に一選手ではなく、一社会人として彼らが困るだろうなという気持ちもあった。つまり、基本的なルールが守れなかったり、自分で発想できなかったりしたら、選手以前に、一社会人としてダメですから』

と語る原監督は、技術的な指導だけではなく、**もっと先を見据えた人間性を重視した指導**をされています。その結果がこの圧倒的に強いチームを作ることとなったのです。

## 上司の命令をハイハイ聞く社会人にはしたくない

青山学院大学陸上競技部で育った部員は、ただ上司の言うことをハイハイと聞くような社会人にはしたくないという思いから、原監督は**日頃からコミュニケーションを重視**しています。

『特に箱根駅伝の常連校になると、監督がいてコーチがいてマネージャーがいて、全部がシステムティックに動いていて、選手たちはただ走るだけが仕事というような組織になっている傾向があるんです。

でもそんな環境で四年間を過ごしてしまった人間は、果たして会社に入ってからどうなのか。だからそれを変えたいという思いもあるんです。

目標管理ミーティングなどで、コミュニケーションをとることを指導ノウハウの軸にしているのにはそうした意味があります。

『そうしないと陸上部引退後に会社に入って、コミュニケーション能力のない奴は、出世できません』

そのような組織だと、マネージャーなどの学生スタッフにも**主体的が生まれてくる**ようです。

『できないマネージャーは「今日の練習どうしましょう」とただ訊いてくる。できるマネージャーは「今日の練習は〇〇ですけど、ちょっと暑いので一時間ずらしましょうか?」と**提案してくる**。

自分の中で選択肢を持たないでただ訊いてくるマネージャーに対しては、「君はどうしたいの?」と訊き返します』

**この「相手から答えが出てくるのを待つ」ということが、一般社会の上司でも、我が子に対する親でも、指導者でも出来ていない人が多いと原監督は言います。**

## すべきことはしつつ「楽観的に」が大切

そして忘れてはいけない大事なことは、何事に対しても最後は「なんとかなるさ」と楽観的であってほしいということです。

『私が見てきた陸上選手は本当に努力しています。自己ベストを更新しようと必死に練習しています。そこまで努力しても、レース本番で結果が出ないことは多々あります。

**私はそこまで努力したなら、結果は負けでも、負けだとは思いません。私が考える負けの基準は、努力しなかった負け、これだけです。**

本人がやりきった結果であれば、たとえ、そのレースで負けたとしても、続きがあるはずですよ。

だからこそ、最後はなんとかなるさの精神が大事なのです。明るく元気に努力して、最後は「なんとかなるさ」で楽観的に構える。

そうすれば、なにかに行き詰まることもなく、組織も個人も伸び続けていけるはずですよ』

## **私たちも同じ思いで日々指導しています**

大学生相手と、小学生～高校生相手なので当然のことながらレベルは違いますが、生徒を指導する際の考え方は通じる部分が非常に多くありました。

小学部の育脳寺子屋では小 1～小 6 まで無学年で、一つの教室で学びます。学年の垣根を越え学び合っています。また、指導者が上、生徒が下という関係性ではなく、あくまで生徒の自学自習を支えるサポーターのような位置を意識しています（当然放ったらかしではなく問題の解き方は指導しますし、注意が必要な時は厳しく注意することもあります）

指導する側が一方的に、強制的にやらせれば、その瞬間はちゃんとするのですが、長期的に自主性を持って行動出来るようにはなりません。

その子その子に合った、「こうすれば自ら動いてくれるだろう」という声かけを探りながら、実践しています。

弱小駅伝部を強豪校に育てた原監督の指導法と同じような指導法を小中高生にしているのですから、なかなかうまくいかないことも多いです。すぐには目に見える成果がないかもしれません。

しかし大切なのは「**相手から答えが出てくるのを待つ**」ことでしたね。何事も結果・成果を求めすぎると子どもは潰れます。親の過度な期待で我が子を潰さないよう、まずはこの1年「じっくり待つ」訓練をしてみてくださいね。

じょうしょうぐんだん つよ ひけつ  
**常勝軍団の強さの秘訣とは。。。？**

りくじょう ひと あこが はこねえきでん たいかい ねん  
陸上をする人ならだれもが憧れる「箱根駅伝」という大会で、この10年の  
あいだ ど ゆうしょう あおやまがくいんだいがく つよ りゆう  
間に7度の優勝をした青山学院大学。その強さの理由とは・・・？

せんしゆ まえ ひとり りっぱ にんげん  
**選手である前に、一人の立派な人間であれ！！**

はこねえきでん だいがくせい さんか えきでんたいかい じゃくしょう じょうしょうぐんだん  
箱根駅伝という大学生が参加する駅伝大会で、弱小チームを常勝軍団に  
そだ あ はらすすむかんとく はらかんとく ちむ つよ か  
育て上げたのが原晋監督です。原監督はどのようにしてチームを強く変え  
ていったのでしょうか？

ひみつ じかん たい いしき か  
その秘密はまず「**時間**」に対する意識を変えたことです。

き じかん まも ぶん びょう むだ いしき  
決められた時間を守る、1分1秒を無駄にしない意識をすることで、  
せんしゆじしん じぶん こうどう み なお しゅたいてき じぶん かんが じかん ゆうこう  
選手自身が自分の行動を見つめ直し、主体的に自分で考え、時間を有効に  
つか けっか じゃくしょう じょうしょうぐんだん か  
使えるようになった結果、弱小チームが常勝軍団に変わりました。

なに どりよく つづ たいせつ おし どりよく  
そして何よりも「努力を続けること」の大切さを教えたのです。努力を  
けっか ま ま な どりよく かに  
したなら、結果は負けでも負けでは無いのです。なぜなら、努力した過程  
むだ じぶん ちから  
は無駄ではなく自分の力になるからです。

けっか め む もくひょう む どりよく  
みなさんも結果ばかりに目を向けずに、目標に向かって努力できているか  
じゅうし  
どうか、それを重視するようにしてくださいね。



わたし どりよく けっか ま ま おも  
「私は努力したなら、結果は負けでも、負けだとは思いません。」

わたし かんが ま きじゆん どりよく ま  
私が考える負けの基準は「努力しなかった負け」それだけです。」

はらすすむ あおやまがくいんだいがく りくじょうぶかんとく  
原晋 ～青山学院大学 陸上部監督～

じぶん へや めだ は よ かせ  
自分の部屋の目立つところに貼って、読み返すようにしましょう。